

「脱原発船橋（仮）」が船橋駅南口で 原発事故10年のスタンディング



原発事故から10年。「原発ゼロ」を呼びかけるスタンディングが行われました。
3月11日・船橋駅南口

東日本大震災による原発事故からちょうど10年目の3月11日、「脱原発船橋（仮）」が原発ゼロを呼びかけるスタンディングを行いました。

福島第1原発の事故は10年経過しても収束のメドさえ立っていません。いまだに3万6000人が避難し続け、溶け落ちた核燃料デブリは取り出せるのかさえわからない状態です。しかも事故処理費用はこれまでに13・3兆円に上っており、このままいけば当初想定していた21・5兆円を上回る可能性が大きくなっています。処理費用の内訳は、廃炉作業1・5兆円、損害賠償7兆円、汚染土壌を取り除く除染4・8兆円となっています。

原発は、一度事故が起これば、地元に帰れず、数世代にもわたって立ち入ることさえ出来ず、処理費用に莫大な資金を投入しなければならなくなります。それでもいまの政権は原発に固執し、各地で再稼働を進めています。

この日のスタンディングではこうした実体を告発し、「原発ゼロの日本を実現させましょう」と呼びかけました。

市民の要望を受けて船橋市に要請 交差点の安全対策が進みました



左右からの道路が見えにくく交差点であることがわかりづらい。
昨年8月6日・船橋市西習志野



交差点部分がエンジン色に塗られ、「交差点あり注意」の看板もつきました。
3月30日・船橋市西習志野

改善を求める要望が寄せられました。日本共産党高郷支部と丸山慎一前県議はこの場所を調査して船橋市に対策を求めました。その結果、①交差点があることを知らせる看板の設置、②交差点部分のカラー舗装、③カーブミラーの設置の3点が実施されることになりました。このほど①②が実現しました。カーブミラーも今後設置が予定されています。

長年の取り組みが実り歩道が歩きやすくなりました

千葉県が管理する県道千葉・鎌ヶ谷・松戸線。ひっきりなしに乗用車や大型トラックなどが通っていますが、正規の歩道がつくられていないため歩行者は側溝の蓋の上を歩かされています。しかもその蓋が古くなっているためガタついており、つまづき



船橋市二和・咲が丘付近を東西に通る県道。歩道は側溝の蓋の上で歩きにくく危険です。

歩道

上の写真と同じ県道。歩道が舗装され、できが良くなりました。

歩道が舗装されて歩きやすくなりました。今後はさらに改善を求めたいです。

ジェンダーギャップ指数120位 政治分野での改善は緊急課題

男女格差報告の主な順位

1位	アイスランド
2	フィンランド
3	ノルウェー
4	ニュージーランド
11	ドイツ G7首位
17	フィリピン アジア首位
30	米国
102	韓国
107	中国
109	ミャンマー
120	日本 G7最下位
156	アフガニスタン 全体最下位

世界経済フォーラムが3月31日、最新の「ジェンダーギャップ指数（男女格差報告）」を公表。日本は156カ国中120位。前回（2019年12月）も153カ国中121位で依然として最下位クラスにとどまったままです。

「報告」は政治・経済・教育・健康の4分野を指数化して国別順位を算出したものですが、日本は国会議員の女性比率

や女性閣僚の少なさなどから、政治分野が147位と最悪の状況です。改善を求める声に押されて「政治分野における男女共同参画推進法」が成立し（2018年）、政党に男女の候補者を均等にする努力義務が課せられましたが、施行後初の国政選挙になった参院選（2019年）で、候補者全体に占める女性の割合は28・1%にとどまりました。ほぼ均等かそれ以上にしたのは共産・立憲・社民だけ。逆に自民は14%、公明は8%で、努力した痕跡さえ見いだせない実態でした。